

令和5年度 中城御殿跡地整備検討委員会（第1回）議事要旨

日時：2023年6月12日（月）14:00～16:30

場所：沖縄県市町村自治会館 2階 大会議室

1. 令和5年度委員会概要及び前回委員会の振り返り

- 令和4年度以降の検討事項に龍潭周辺整備についてとあるが、資料には城西小学校側の整備について記載されていない。対象となっていることがわかるようスケジュールにも追加してほしい。（委員）
 - まずは松崎馬場側の整備と植栽管理を進め、その後、事業スケジュールも含め県関係部局と調整し検討していきたい。（事務局）

2. 御内原・表御殿西側エリアの基本設計について

- 文化財整備で重要なのは、往時の風景を再現し、できるだけ近代的なものを見せないことである。上之御殿エリアから余計なものが見えないよう、植栽の工夫など景観的な配慮が必要である。（委員）
- パースでは増床部とオリジナル部の壁が同じ仕上げに見えるが、区別できるようにしてもらいたい。（委員）
- 炭御蔵の北側と東側の増床について、北側に増床するとフクギの連続性が途絶えるのではないか。古写真でもフクギ並木があり、大中町側から見たときにフクギが途切れないよう配慮してほしい。（委員）
- 構造計画について、遺構面から計画GLまで50～80cm上がると説明があった。敷地全体が嵩上げされるので、違和感がないすりつけ方が必要である。段差や本来無いスロープが生じる可能性など、建物部分と外構のすりあわせが課題なので十分検討してほしい。また、避難計画においても高低差の影響が出てくる。健常者以外の避難も踏まえ十分に検討してほしい。（委員）
- 設備計画について、污水管を公共下水道に接続する際に脇門の下を通る計画となっているが、石積・石畳が残っている場所である。遺構が残っていない場所を通すよう配慮してほしい。（委員）

3. 尚家関係資料について

- 尚家関係資料を中城御殿で常設展示するという非常に大きな良い方向転換である。常設とする場合も公開承認施設の認定を目指すのか。（委員）
 - 管理運営計画なども踏まえ、今後検討を進める。（事務局）
- 那覇市歴史博物館に収蔵している資料のうち、国宝1,468点全てを中城御殿へ移すという考えか。今後の市歴史博物館の運用についてどのように考えているのか。（委員）
 - 中城御殿での収蔵対象等については今後検討していく。（那覇市）
- 国宝の所有者である那覇市が中城御殿の管理運営に参画するにあたり、管理運営はどうか

るか。首里城公園の指定管理者との役割分担及び連携等も含め、委員会でも実現に向けた体制について十分議論していきたい。(委員)

- 収蔵の仕方によって火災の被害を防ぐ方法もあるとわかってきた。首里城火災の教訓を展示収蔵のあり方に反映したい。火災後に展示収蔵環境のあり方について沖縄美ら島財団がまとめているため、情報共有しながら進めてほしい。(委員)
- 過年度には首里城火災で損傷した美術工芸品の修理スペースも検討されてきたが、今回の国宝資料の常設展示を受けて、それらへの影響は生じるのか。(委員)
- 修復スペースについて議題には上がったが、まだ煮詰まっていない。今回の尚家関係資料の常設展示・収蔵という方針を受けてどうするか、議論を進めていきたい。(委員)
 - 首里城における展示収蔵の機能を中城御殿で担うという大きな方針は変わらない。修理・メンテナンス含めた諸室も過年度の方針に沿って詳細検討していく。(事務局)
- 常設展示とは常設収蔵を意味する。国宝資料の収蔵、今まで城郭内にあった美術工芸品、あるいはそれ以外のものを収蔵することになるので、展示コンセプトも含め収蔵のゾーニングをかなり考えなければならない。(委員)

4. 正門側井戸整備に係る遺構の活用について

- 井戸遺構の高さを路面に高さをあわせることで文化財の姿は変わるが、敷地内で再現展示するという事務局の提案は、文化財整備の方法のひとつとして妥当であるとする。場所を移転して展示するにあたっては、本来の位置に近い部分におき理解を深めることができる A 案が望ましいと考える。往時の姿に近づけるよう整備し、見せ方を検討してほしい。(委員)
- 以前から、場所を移して再現展示することが適切だと考えていた。あとは元の場所でどう伝えるのか、サインのデザインを工夫してほしい。(委員)
- 本来の場所に近い位置で再現する A 案は、スペースが狭いため見る角度などが制約されないか気になる。見せることを優先するなら、正門前のスペースに再現する B 案がよいだろう。(委員)
- 原位置で井戸についてのみ説明すると、井戸の上に後から石牆がつくられたような誤解を与えかねない。往時の石牆の位置も併せて説明すべきであるが、それを説明しきれないのであれば、むしろ原位置ではなく敷地内で再現した井戸のところで説明したほうがよいのではないか。(委員)
- 中城御殿正門前に位置する龍潭通りは現在、四角い石畳舗装がなされているが、もとは石粉舗装だったのではないかと想像する。ここを石粉舗装として井戸や石垣のあとを石舗装として区別するというのも一案ではないか。(委員)
- 交通量が多いところなので、石粉舗装や香粉舗装は強度的に持つかの検討も必要である。(委員)
 - 道路所管部局である南部土木事務所とともに舗装のあり方についても検討したい。(事務局)

5. 龍潭周辺整備について

■龍潭線から龍潭水辺園路へ降りる階段

- 当該の石階段については、御冠船之時御座構之図に記載があり、中城御殿があった当時に階段があったことは確認できた。しかし、池越しに中城御殿を望む古写真がかなり残っており、昔から景観スポットであったといえる。その真ん中に木デッキを置いてしまうのは目立ちすぎるので、整備するのであればできるだけ場所を東側に寄せられないか。(委員)
- 勝連グスクや玉城グスクなどの事例も参考に、景観や安全面、利便性とのバランスで検討されたい。(委員)
- 松崎馬場の整備が完了すれば、龍潭の園路から松崎馬場に上がっていくことができるので、このような景観を損なうおそれのある人工的なものは不要ではないか。地域の皆さんには園路整備の全体像が伝わっていないので「園路の通行のために階段で下ろしてほしい」という意見が出たが、松崎馬場が整備されて通行できるのであれば必ずしも木製デッキでなくてもよいと思う。(委員)
- 松崎馬場から通行できるようになれば、デッキがなくても機能的に園路機能は損なわれないだろうし、景観を乱すことにもならない。(委員)
- もとの石の階段の歴史的な評価をしっかりと確認すべき。価値があるものなら景観上もふさわしく安全性のある石階段を整備するのがよい。一方園路としては、階段も1箇所だけでなく複数あるほうが使い勝手がよいのかもしれない。価値を見極めてそれにふさわしい整備をするべきである。(委員)
- この辺りから首里城を遠望するのが有名なビュースポットになっている。高齢者を含め多くの人が龍潭周りの親水空間を楽しむためにどのような階段を設置するのがよいのか、また、設置した場合に松崎馬場の景観はどのようになるのか、龍潭周辺を楽しむためにどのような全体的な工夫が必要なのか、総合的に考えたほうがよいと思う。龍潭周りの景観をどう楽しむか総合的な観点から考えるべき。(委員)

■龍淵橋下の水辺園路改修

- 龍淵橋下の飛び石は滑りやすく危険であり、現在通行止めになっている。整備するのはよいが、段差が生じることになるのか。夜間など危険なので、段差の処理はきちんと考えるべき。(委員)
- 龍潭周りの園路は平坦だが外部につながっていない。松崎馬場園路に車いすでもつながるルートを検討してほしい。(委員)

6. 中城御殿正門前の照明計画について

- 手燭型灯具ではなく埋め込み型で石牆をライトアップする案はよいと思う。手燭型灯具について龍潭側はどうするのか。景観的に違和感があるので、龍潭側もしっかり考えないといけない。(委員)
- 横からのライトアップで壁面を照らすのはよい。問題は安全性であり、車からガードレールが視認できるか。反射板でもよいが車が視認できる機能が必要である。(委員)
 - 南部土木事務所と相談して、反射板などがつけられるか、それによって石柱ボラードのイメージが変わらないか検討したい。(事務局)

- 石牆をライトアップすることで中城御殿が象徴的になる。首里城とも呼応しながら長い石牆が大変印象的になるように安全性も考慮し検討していただきたい。(委員)
- 手燭がここで切れることについて、地域としては問題ないか。(委員)
 - 首里城と中城御殿の連続性が夜間景観として出てくるので(地域としても)よいことである。龍潭側の照明をどうするかは課題であるので、南部土木事務所との協議が大切になる。(委員)
- 石牆を照らすのは雰囲気がでてよい。安全性への配慮、地域の方のご意見を反映した経緯も含めて、検討していただきたい。(委員)

以上